

1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0870301074
法人名	社会福祉法人 欣水会
事業所名	グループホーム だんらん
所在地	茨城県土浦市中央1957 (電話)029-826-1110

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成21年3月6日

【情報提供票より】(平成20年11月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	13.9 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 30,000 円/月		

(4)利用者の概要(11月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院 つくば双愛病院 神立病院 天川歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には田畑が広がり、自然豊かな環境にある。法人はグループホームを立ち上げる以前から、福祉事業に携わっており実績がある。法人全体で、地域貢献に取り組んでおり、行事等では地域の交流が盛んである。「だんらん」と言う名前の通り、利用者と職員は家族のような感じを受けた。利用者同士で助け合う場面や、楽しそうにおしゃべりして過ごしている場面、職員の利用者に対する対応の温かさを感じる事が出来た。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では個人情報に関する同意書の作成が求められ、契約書に盛り込むことで改善している。取り組み項目以外に挙げられた事柄に関しても、話し合いが行われ改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で自己評価に関する話し合いを行い、管理者が作成した。職員は、自己評価に関して話し合い行ったことで振り返りの機会になったと意見があった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、利用者や家族代表、民生委員や地区長が集まり、利用者の状況や行事の報告、運営上に関する話し合いが行われている。和やかな雰囲気での話し合いは行われ、そこででた意見はサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との対話を大切にしており、意見等は直接家族から聞くようにしている。家族会を開催し、家族同士が集まって話し合える場を提供したり、意見箱も設置している。家族から出た意見は、話し合いの機会をもち運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	防犯パトロールの一環で、地域の方がホームに寄ってくれたり、散歩時には挨拶を交わすなど日頃から地域との交流がある。また行事には地域の方の参加があったり、地域のお祭りに見学に行ったりしている。自主的にホーム周辺の空き缶拾いを行ったり、防犯パトロールを実施している。地域貢献について、職員全体で話し合いをもつなど積極的である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活することを意識した理念を法人全体で掲げている。ホーム独自で、年度毎や月毎に職員全体でスローガンを取り決めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念を唱和したり、会議で理念の内容について話し合いを行うことで職員全体の意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームから、地域に向けて積極的な働きかけをおこなっており、法人で行われる行事に地域の方の参加があったり、地域のお祭りを見学に出かけたりなど、地域と交流する機会が多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価についての意義や目的について周知出来るよう、ミーティング時に報告している。前回の取り組み項目に関しては、話し合いをもち改善されている。自己評価に関しては、職員全体で考え、管理者が記入した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者や家族代表、民生委員や地区長が参加し、外部評価や利用者の状況・ホームでの取り組みなどについて報告している。そこでの意見を職員会議などで話し合いを行い、サービス向上に活かしている。		

茨城県 グループホームだんらん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者とは相談しやすい関係であり、運営に関する内容の相談などを持ちかけている。ホームは、中学生の体験学習の場として提供している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時に報告したり、「だんらん通信」を発行し、写真を同封したり日々の暮らしぶりを書いて家族に毎月報告している。また、金銭面についても領収書を郵送し報告している。健康状態については、その都度電話で報告し、個人の記録に連絡内容を記録している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との対話を大切に直接話しを聞くようにしている。また、家族会の開催や第三者委員会の設置など、家族の意見等を聞く機会を設けている。家族からの意見等に関して、話し合いを行い、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員のレベルアップを目的とした定期異動は行っているが、それ以外の異動を行わないようにしている。職員間の人間関係を大切にしたり福利厚生を重視することで、離職を抑える努力をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修には、段階に応じて受けられるようにしている。研修後は、情報を共有する為にミーティングにて報告し、資料などをファイリングしている。資格取得など人材育成に関しても積極的である。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>老人福祉施設協議会に加入し、多くの関係者と交流を凶っている。近隣のグループホームと交換研修を行い、お互いのサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みから利用までの間、定期的に面接や電話で本人や家族から話を聞くようにしたり、ホームに見学に来てもらったり、空いている部屋があれば体験入所も行えるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理等、それぞれの得意分野で、利用者から学ぶ場面が多くあり、その都度感謝の言葉かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴、楽しみごとなど生活全般に関するアンケート調査を行い、利用者の希望や意見を聞いている。思いが伝えられない場合は、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の出来ることや支援が必要なこと、生活の意向など情報を収集し、本人や家族、職員と話し合い、個別で具体的な介護計画を立てるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。状態変化が見られた場合はその都度、話し合いを行い現状に合った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所だけでなく、法人全体で利用者の状況に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の大半は、協力医療機関がかかりつけ医となっており、月2回の往診がある。本人や家族が希望するかかりつけ医に、適切な医療が受けられるように、情報提供したり、電話連絡したりしながら連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しての話し合いを随時行っており、話し合った記録を家族にお渡ししている。これまでに医療との連携を図りながらホームで看取った経験がある。同意書を新たに作成するなど、体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応に対して、利用者を気遣う様子が窺えた。個人情報に関する同意書は、契約書の中に記載し、取り交わしている。ホーム内の写真掲示に関しては、利用者や家族に了承を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの習慣や本人のペースを個別に確認し、利用者の希望に沿った、日々の暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや後片付け等、職員と一緒にやっている。利用者の好きな物を献立に取り入れたり、季節に合った食事を提供する等食事が楽しみとなるような支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や曜日は、利用者の希望に合わせて対応している。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯などを行い入浴を楽しめるような工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理など、利用者の得意な事ややりたい事を行ってもらう様になっている。楽しみごとなどに関するアンケートを行い、利用者の要望を取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事や趣味等に合わせた外出、買物や外食など、一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には施錠はされておらず、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、利用者と共に地震や火災など色々な場面を想定した避難訓練を行っている。災害に関するマニュアルが作成されており、備蓄品についても確保されている。	○	夜間想定の実践を実施しているが、緊急時の対応について再度確認し、スムーズに行えるように努めて頂きたい。また、家族に対しての緊急時の情報伝達方法を伝えて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を行っている。医師の指示や利用者の状態に合わせた食事形態で食事を提供している。栄養士による栄養バランスの指導も定期的に受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれており、利用者にとってゆったり過ごせる空間となっている。季節の花や落ち着いた雰囲気の花が飾られており、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの小物や家族の写真、趣味の折り紙や書道などが飾られており、居心地良く過ごせるようになっている。		